

2018年度日本数学会出版賞受賞者のことば

遠藤 寛子 氏 『算法少女』

この度は全く思いがけなく一ほんとうに全く思いがけなく、小著〈物語〉「算法少女」により名誉ある日本数学会出版賞を受賞し、身に余る光栄に存じております。数学は学問の女王であり、日本数学会は私などには近づきがたい遠い世界と思っておりました。御推挙下さいました皆さま、関係の方がたに厚くお礼申し上げます。

私は三重大学には戦後の一時期国立大学におかれた短期大学制の教員養成課程で学びましたが、入試科目に数学があるのでとても悩んだ事を覚えています。私は全くの数学苦手人間なのです。本年度、これは高度な内容の御著作で本賞を受賞された三重大学特任教授の奥村晴彦先生が、三重大学につながる御縁を仰せ下さったので有難く且つ恐縮しております。

教職につきながら書いた少年少女のための作品が認められ、いくつかの作品が世に出る中で、岩崎書店から歴史小説の依頼がありました。数学苦手の私が、千葉桃三、娘章子著、安永4年（1775年）に出版された〈和算書〉「算法少女」にまつわる〈物語〉「算法少女」を書く事にしたのは、幼い時父からこの本について聞いた事が心に残っており、和算を背景に使って一ぐらいの気持でした。父も専攻は応用化学でどうしてこの本を知ったのかわかりませんが、趣味として幕末の理化学書を蒐集研究していたので、和算関係の情報を得る事もあったのかと思います。

作品を書くうちにこれは大変だとわかってきましたが「明治前日本数学史」や「東京物理学校雑誌」等に助けられ、何とか〈物語〉「算法少女」をまとめました。大矢真一先生が強く推して下さり、1973年に初版が出ました。平山諦先生、下平和夫先生、小寺裕先生、真島秀行先生—多くの先生が御支援下さり、児童文学の名誉ある賞もいただきました。その後の長い絶版の時期にも御支援は続き、2006年、亀井哲治郎氏の御尽力でちくま学芸文庫に加えられました。これらの経緯は同文庫のあとがきに記しております。その後作品はアニメ化、劇画化され、また台湾で中国語訳が出版されるなど、思わぬ広がり続けました。その上この度は一般への啓蒙という評価までいただき不思議な出会いに恵まれたこの作品の幸福を思っております。

遠藤 寛子
児童文学作家

奥村 晴彦 氏, 黒木 裕介 氏 『LaTeX2e 美文書作成入門』

このたび『LaTeX 2_ε 美文書作成入門』に日本数学会出版賞をいただきました。ありがとうございます。

最初の『LaTeX 2_ε 美文書作成入門』は 1997 年に出版しました。2000 年には『[改訂版] LaTeX 2_ε 美文書作成入門』, 続いて 2004, 2007, 2010, 2013, 2017 年に『[改訂第 n 版] LaTeX 2_ε 美文書作成入門』 ($n = 3, \dots, 7$) が出版しました。実は、これらの前にも、1991 年に『LaTeX 美文書作成入門』, 1994 年に『LaTeX 入門』という題で出しているのです。9 冊の LaTeX 本をほぼ 3 年周期で出したこととなります。

TeX はバグフィックス以外の仕様変更をほとんどしない方針なので、こういう本は一つ出せば済んでしまうと思っていました。ところが LaTeX 2.09 はすぐに LaTeX 2_ε に変わり、最終出力も PostScript から PDF に変わり、日本語環境も pTeX が Unicode 対応の upTeX に進化し、さらには dvi でなく PDF を直接出力する pdfTeX を Unicode 対応にした LuaTeX で日本語も問題なく扱えるようになってきました。インクルードする図版も今は EPS ではなく PDF が推奨です。picture 環境や PSTricks は TikZ にほぼ凌駕されました。このほか、毎年たくさんの改良が行われています。もう 3 年に 1 度の改訂では追いつかなくなるほどですが、人間の適応能力を考えれば、3 年に 1 度ほどパソコンを買い換えるタイミングで最新の『美文書…』で環境を構築するくらいが適当かもしれません。もっとも、もうそろそろ TeX 環境を構築しなくても、Cloud LaTeX や Overleaf などのクラウド環境を使えばよい時代になりつつあります。

今後も『美文書…』は、LaTeX の需要がある限り、最新の情報を取り入れて、約 3 年ごとに改訂し続けるつもりです（次は東京オリンピックバージョンです！）。ご要望がありましたら何なりとご提案いただければ幸いです。これからも『美文書…』を何卒よろしく願いいたします。

（ちなみに私は 2017 年 3 月で三重大学を定年退職しましたが、今も特任教授として授業をしています。）

奥村 晴彦
三重大学教育学部特任教授

このたびは『 $\text{\LaTeX} 2_{\epsilon}$ 美文書作成入門』(以後, 美文書) の執筆活動に対して日本数学会出版賞を賜りましたこと, 大変ありがたく存じます. 授賞理由を伺ったところ, \TeX 環境開発者・貢献者全体を代表して謹んで賞を受けなさい, というのだと理解しました. まさにその心持ちでして, 私からも開発・発展・維持に尽くしていらっしゃるすべての方に御礼申し上げます. 最近の美文書でも, 付録の DVD-ROM の作成には, 同世代(で若手)の, 阿部紀行さん・寺田侑祐さん・山本宗宏さんの多大なるご協力をいただいておりますこと, 紹介するとともに謝辞を述べさせていただきます.

美文書は奥村晴彦先生の著作, というのが一般の認識だと思います. 私自身, \TeX 利用歴は美文書とともに始まりました. 2000 年発行の改訂版(第 2 版)からの読者デビューです. 美文書のほかでは, Q & A サイトで回答したり質問したりする中で鍛えていただきました. 質問した事柄を美文書の次版で取り上げていただいたときは誇らしくも思ったものでした. 一方で当時, 美文書付録の CD-ROM を使わずに \TeX を始めるには環境構築(インストール)作業が難関でした. 2006 年ころには Windows に日本語 \TeX 環境を整えるためのプロジェクトが, 現協力者の阿部さん, 山本さん, そして私のものと, 三つも存在していました. それほど同時多発的にインストールに対する課題設定が行われていたのでした. プロジェクト活動をきっかけにして奥村先生とも直接の面識ができ, 奥村先生を実行委員長として国内会議を開くようになりました. 美文書には第 5 版から執筆などに加わりました. 第 6 版からは共著者として表紙にも名前を出していただき, 今日に至ります.

環境構築については, いまでは世界共通に \TeX Live というディストリビューションをインストールすればよくなりました. 唯一解ではありませんが, お勧めできますし, 最近の美文書は \TeX Live を基準とした構成に改まっています. そういった情勢をつぶさに捉え改訂を続けてこられた奥村先生の業績を汚さぬよう, そしてよりよい変化をもたらせるよう, 精進を続けてゆきたいと思います.

黒木 裕介